

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和7年度技術情報について

令和7年度技術情報第1号を発表したので送付します。

令和7年度技術情報第1号

令和7年5月2日
徳島県

令和7年4月24日に、県中央部のミニトマト施設ほ場において、トマトキバガの農作物への被害を確認しました。また、県内2地点に設置した本虫のフェロモントラップへの誘殺数が増加しており、今後被害が拡大する可能性があります。

現地ほ場においては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：トマト、ミニトマト

病虫害名：トマトキバガ

1. 発生地域：県中央部

2. 発生状況

令和7年4月24日に、県中央部のミニトマト施設ほ場内において、表面を薄皮状に残した被害葉及びせん孔侵入した食害痕のある被害果実を確認した(図1～2)。食害部の内部には幼虫が確認され、徳島県病虫害防除所で同定を行った結果、トマトキバガであることを確認した(図3)。

また、阿波市の2地点に設置した本虫のフェロモントラップへの誘殺数が増加しており、今後被害が拡大する可能性がある(図4)。

本虫は、国内では令和3年10月に熊本県で初めて確認され、これまでに全国でフェロモントラップへの誘殺が確認されている。徳島県では、令和5年6月30日にフェロモントラップへの初誘殺を確認し、同年7月21日付けで特殊報を発出した。

県内での農作物への被害は今回が初確認である。なお、4月24～25日に被害確認ハウス以外の8地点のトマト及びミニトマト施設ほ場において被害状況を調査したところ、発生は認められなかった。

3. 形態及び生態

- (1)成虫は、翅を閉じた静止時で体長5～7mmの小型の蛾である。幼虫は、終齢で約8mmとなる。
- (2)トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。
- (3)1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。
- (4)卵～成虫になるまでの期間は、24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (5)成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。
- (6)幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

4. 防除法等

- (1)ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2)令和7年4月30日現在、トマトキバガに対してはトマト、ミニトマトで表1のとおり農薬登録されている。
- (3)被害葉や被害果実はほ場に放置せず速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4)防除については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。
(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/tokushima>)



図1 ミニトマト葉の被害



図2 ミニトマト果実の被害



図3 トマトキバガ幼虫

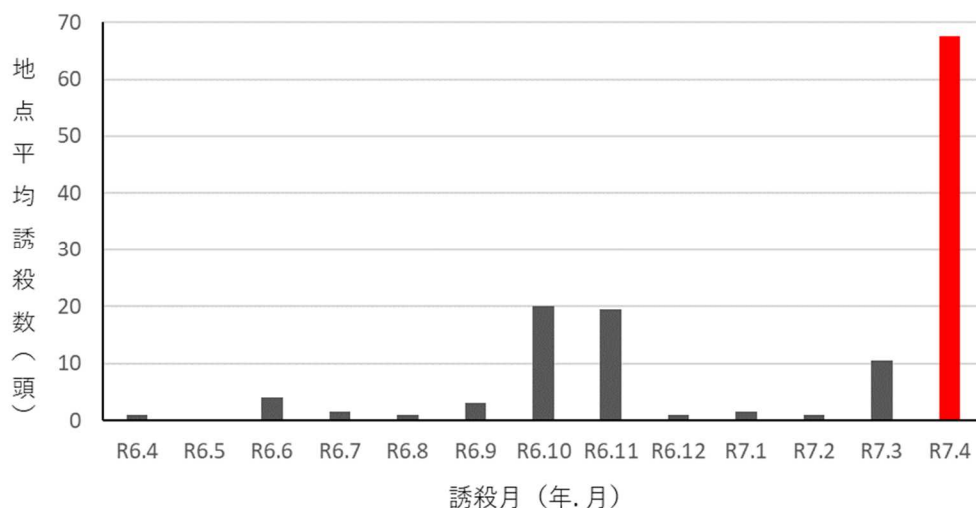


図4 県内2地点※に設置したフェロモントラップへの誘殺数
 ※夏期間(7~9月):阿波市内の雨よけ栽培施設付近の2地点
 その他の期間:阿波市内の促成作型栽培施設付近の2地点

表1 トマトキバガの登録農薬(令和7年4月30日現在)

農薬名称 (商品名)	使用時期	希釈倍数 または使用量	散布液量	使用方法	本剤の 使用回数	RAC コード	トマト登録	ミニトマト 登録
プリロッソ粒剤	育苗期後半 ~定植時	2g/株	—	株元散布	1回※1	28	◎	◎
プリロッソ粒剤オメガ	育苗期後半 ~定植時	2g/株	—	株元散布		28	◎	◎
ベリマークSC	育苗期後半 ~定植当日	400株当り25mL	400株当り10~20L (1株当り25~50mL)	灌注	1回	28	◎	◎
プレバソフフロアブル5	育苗期後半 ~定植当日	100倍	1株当り25mL	灌注	1回	28	◎	◎
ダブルシューターSE	収穫前日まで	1000倍	100~300L/10a	散布	2回以内	5	◎	◎
ディアナSC	収穫前日まで	2500~5000倍	100~300L/10a	散布	2回以内※2	5	◎	◎
ラディアントSC	収穫前日まで	2500~5000倍	100~300L/10a	散布		5	◎	◎
アグリメック	収穫前日まで	500~1000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	6	◎	×
アフーム乳剤	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	5回以内	6	◎	◎
アニキ乳剤	収穫前日まで	1000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	6	◎	◎
エスマルクDF	発生初期(但し、 収穫前日まで)	1000倍	100~300L/10a	散布	—	11A	◎	◎
チューンアップ顆粒水和剤	発生初期(但し、 収穫前日まで)	2000倍	100~300L/10a	散布	—	11A	◎	◎
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	13	◎	◎
トルネードエースDF	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	2回以内※3	22A	◎	×
ファイントリムDF	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布		22A	◎	×
アクセルフロアブル	収穫前日まで	1000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	22B	◎	◎
プレバソフフロアブル5	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	28	◎	◎
フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	2回以内	28	◎	◎
ベネビアOD	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	3回以内	28	◎	◎
ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	2500倍	100~300L/10a	散布	3回以内	28	◎	◎
グレーシア乳剤	収穫前日まで	2000倍	100~300L/10a	散布	2回以内	30	◎	◎
プレオフロアブル	収穫前日まで	1000倍	100~300L/10a	散布	2回以内	UN	◎	◎

※1 ベリマークSC、プリロッソ粒剤、プリロッソ粒剤オメガは同一成分のためいずれかを1回

※2 ディアナSC、ラディアントSCは同一成分のため合計2回

※3 トルネードエースDF、ファイントリムDFは同一成分のため合計2回